

キタ！からきた



※支部活動に関するご質問・ご要望や、事例検討会、一泊研修他、申し込みについては、以下のメールアドレスにご連絡下さい。

kitasibu2012@yahoo.co.jp 大阪北支部宛

だより

第186号

「こんなところに社会福祉士がいた！」

＜大阪北支部・会員リレー紹介 064＞

レポーター（近藤量行）



大手製薬会社の本社人事部門で活躍される久司美穂^{ひさじみほ}さんは、国内事業全体の人事制度やカルチャーづくり、そして働きやすい職場づくりを担う「縁の下の力持ち」です。成果が目に見えにくいながらも、組織の変革に不可欠な課題に粘り強く取り組んでいらっしゃいます。

また久司さんは特例子会社の担当もされています。知的・聴覚・精神障がいを持つ方々が働くこの子会社で、久司さんは、経営陣へのマネジメント相談や現場の育成指導等で運営面をサポートし、誰もが最大限の能力を発揮できる職場環境づくりに日々奮闘されています。

彼女の原点は、高校時代に感銘を受けた「チャイルドライフスペシャリスト」。大学で社会福祉を専攻し、卒業時には社会福祉士の資格を取得。今の会社で特例子会社の担当になったこと、またご家庭では発達障がいのお子さんの支援を受けた経験から、「福祉」への学びの意欲が再燃したそうです。「人と人とを繋げ、その人らしい人生をサポートする」点に、人事の仕事との共通点を感じたそうです。日頃から「多様な背景を持つ人々が、最大限の能力を発揮できるように環境を整える」ために、会話や表情を細やかに観察し、相手の思いをきちんと理解することに注力しています。様々な会合や勉強会での「ご縁」を大切にされる久司さん。社会福祉士としての活動を通して築いたネットワークを活かし、これからも共に学び、挑戦していきたいという強い意志を抱かれています。



大阪北支部 司法福祉研修（第3回）報告 『大阪刑務所を訪問して』

今年度、大阪社会福祉士会北支部では、6月から拘禁刑が始まり、矯正施設における福祉的支援の役割が拡大したことを受け、「出会う壁からつなぐ橋へ」をスローガンに司法福祉研修を全3回のシリーズで実施しました。

第1回は「再犯防止と矯正施設の現状」、第2回は「矯正施設における社会復帰支援および地域生活定着支援センターの役割」をテーマに、受刑前後の入口支援・出口支援の重要性について学びました。

そして締めくくりとして、堺市にある大阪刑務所を見学しました。説明では、拘禁刑への移行により、作業を一律に課すのではなく、受刑者一人ひとりの特性や課題に応じた改善指導・職業訓練・教育指導が行われていることを知り、更生と出所後の生活を見据えた支援が具体的に進められている点に大きな学びがありました。

私自身、初めての刑務所見学で、これまで「罪を償う厳しい場所」という先入観を強く抱いていたことに気づき、その認識が大きく揺さぶられました。居環境や健康管理への配慮などを目の当たりにし、受刑者にも生存権が保障された「自由刑」として、社会復帰を目指す場であることに正直な驚きを覚えました。今回の経験を通じ、私たち社会福祉士が果たす役割の重さと可能性を改め

て実感しました。今後も出所後の地域生活を支える一助となるよう、学びを実践につなげていきたいと思ひます。（田中幸宏）



★大阪北支部公式LINEアカウントのお知らせ（※他支部の方の登録也大歓迎です！！）

情報が早い！情報が手元に届く支部公式LINEです。紙の広報誌よりも早く情報が届きます。

LINE「友だち追加」から、ID検索「@712abvel」するかQRコードをスキャンしてください。

